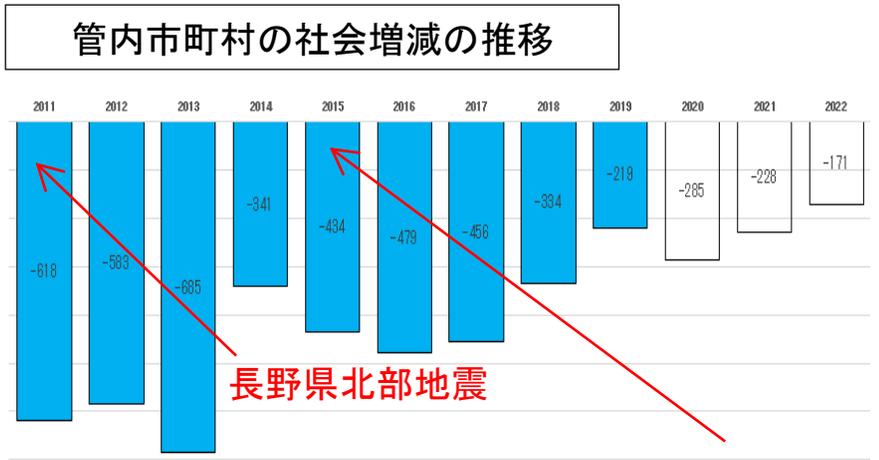


## 達成目標の進捗状況

<b>社会増減</b> <small>毎月人口異動調査（企画振興部調）</small>	<b>年</b>	<b>基準値(2017)</b>	<b>目標値(2022)</b>	<b>最新値(2019)</b>
	実績値	△456人	△171人	△219人
<b>移住者数</b> <small>（企画振興部調）</small>	<b>年度</b>	<b>基準値(2016)</b>	<b>目標値(2022)</b>	<b>最新値(2019)</b>
	実績値	142人	198人	167人
<b>創業・立地件数</b> <small>（産業労働部調）</small>	<b>年</b>	<b>基準値(2012～2016累計)</b>	<b>目標値(2018～2022累計)</b>	<b>最新値(2019年までの累計)</b>
	実績値	16件	増加	8件
<b>除雪作業中の事故件数</b> <small>（危機管理部調）</small>	<b>年度</b>	<b>基準値(2016)</b>	<b>目標値(2022)</b>	<b>最新値(2019)</b>
	実績値	23件	減少	4件

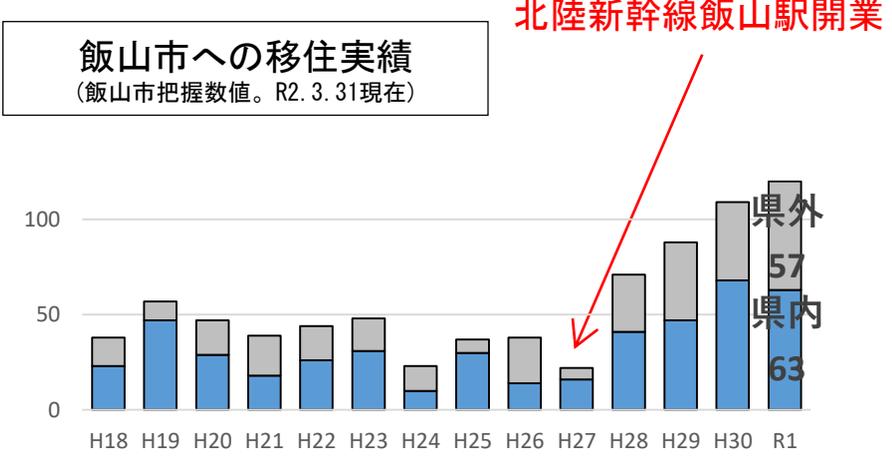
### （社会増減）

- 北信地域全体の社会増減は△219人と社会減が続くが、縮小傾向にある。
- 転出入は県外からは転入超過(+179人①)、県内間では転出超過(△282人②)で、転出入比率はともに県内6割、県外4割で推移。  
(△219人 = ① + ② + 「その他増減数(職権による登録・消除等)」△116人)
- 20～39歳が転出入の約半数を占め、転出超過傾向。
- 特別豪雪地帯は転出超過が顕著。
- 外国人住民数は1,686人で前年より265人増加。



### （移住者数）

- 移住者数は167人と基準値を上回った。特に、飯山市への移住実績(120人)は過去最高で、新幹線開業と移住施策の相乗効果がうかがえる。
- 移住者の年代は20～40歳代が約7割を占める。移住理由は、就職・転職・就農と、地方暮らしがともに3分の1となっている。
- 飯山市では、移住者の6割が県内からの転入、Iターンが7割。なお、北信地域全体はIターン比率が6割を超えている。



## (創業・立地件数)

- 創業・立地件数は、2019年までの累計で8件。
- 創業応援減税に関わる創業認定は7件と一定の創業の動きがある。
- 工場立地(1000㎡以上の用地取得)は0件と低調。

## (除雪作業中の事故件数)

- 除雪作業中の事故件数は4件(うち雪下ろし0件、死亡事故0件)と減少。
- 住民の暮らしを支える総合的な雪対策の周知が図れたとともに、降雪量が平年より少なかったことも、事故件数が減少した一因と推察される。
- 過去5年間、県全体では死亡者が16人。うち雪下ろし8人、高齢者が7割近くを占めている。

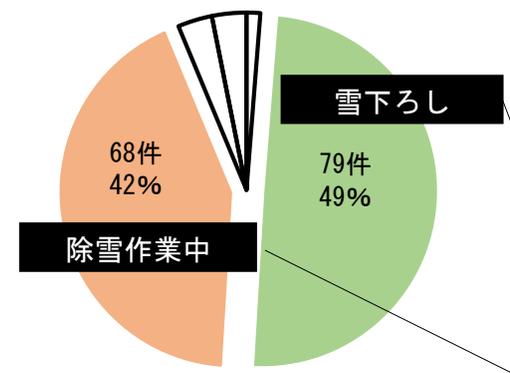
## 【重点政策の評価】

- ・ 社会減は縮小傾向。創業・立地件数も昨年に比べ増加しており、飯山市においては空き家の成約数が増加しているなど、移住・定住の拡大や就労の場の拡大に向けた取組への一定の成果が表れている。
- ・ 昨年度から住民の暮らしを支える総合的な雪対策を拡充しており、除雪作業中の事故が減少している。

## 【今後の取組の方向性】

- 若者定着・人口定着のため、移住・定住の促進、創業・就労支援、雪対策等による生活基盤の整備を重点的に実施していく。
- 多様な働き方や暮らしの提案など、北信地域の特性を活かした取組を行っていくことが重要。
- 既存産業の振興に加え、県立大CSIの伴走型起業支援等により起業意欲を高め、小さな起業(成功事例)を増やすことが重要。
- 克雪住宅(融雪型、落雪型、雪下ろし型)の普及を促進するとともに、引き続き雪下ろし作業の安全対策の普及を進める。

県内の雪害事故件数(2015-2019、全159件)



県内の雪害事故死亡者数(2015-2019)

原因	死亡者数(人)	
	県内	うち北信地域
雪崩	2	1
屋根の雪下ろし	8	6
除雪中の事故	6	4
屋根からの落雪	0	0
その他	0	0
合計	16	11

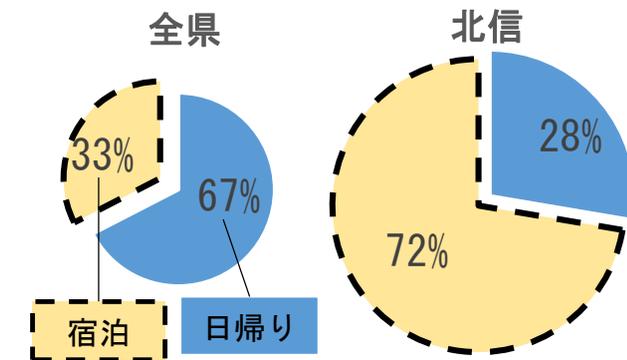
除雪作業中の事故件数147件  
死亡者数14人

## 達成目標の進捗状況

観光地延利用者数 <small>観光地利用者統計調査(観光部調)</small>	年	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2019)
		実績値	691 万人	719 万人
春季から秋季の観光地利用者数	実績値	383 万人	400 万人	361万人
冬季の観光地利用者数	実績値	308 万人	319 万人	316万人
観光消費額 <small>観光地利用者統計調査(観光部調)</small>	年	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2019)
	実績値	361 億円	376 億円	361億円

- 観光地延利用者数は677万人と基準値を下回ったが(基準年比98.0%)、観光消費額は、361億円と基準年と同額となった。
- 利用者の内訳は、グリーンシーズンが361万人(53% (全県76%)、基準年比94.3%)、ウインターシーズンが316万人(47% (全県24%)、基準年比102.6%)。
- 本地域の特長として、ウインターシーズンのほか、「宿泊」の利用率が高い。
- 外国人宿泊者数は、冬季を中心に全県を上回るペースで増加。
- 新幹線飯山駅の利用者数は、開業以来毎年増加していたが、台風被害等により前年度より減少(2019年度乗車人員: 531人/日(前年度567人/日))。

日帰り・宿泊の全県との比較



### 【重点政策の評価】

- ・ 外国人宿泊客の増加等により冬季の観光地利用者数は伸びており、事業者によるインバウンド促進策の成果が表れている。
- ・ 冬季以外の観光地延利用者数が伸び悩んでいるため、サイクリング環境整備などグリーンシーズンの観光コンテンツ充実による通年型観光地づくりが必要。

外国人宿泊数の全県との比較  
(2008(H20)年を100として比較)



### 【今後の取組の方向性】

- アウトドアアクティビティを中心としたグリーンシーズンの観光コンテンツの充実、天候に左右されにくい食や歴史文化など地域資源の活用等による通年型の観光地域づくりの推進。
- 観光産業を支える人材、担い手の確保。受入環境の整備、プロモーションの強化を行うとともに、新型コロナウイルス感染症との共存を見据えた観光地作りを行う。
- 信越自然郷を中心とした広域観光推進体制の強化。

## 達成目標の進捗状況

果樹戦略品種等の栽培面積 (農政部調)	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2019)
	実績値	253ha	460ha	311ha
良食味米、業務用米等の栽培面積 (北信地域振興局調)	年度	基準値(2016)	目標値(2022)	最新値(2019)
	実績値	535ha	650ha	527ha

### (果樹戦略品種等の栽培面積)

- 栽培面積は311haと基準値比123%に増加。
- 新品種等の栽培面積が拡大。特にニーズが高く高値傾向のシャインマスカット(ぶどう)が増加面積の8割以上を占める。また、クイーンルージュ(ぶどう)導入がスタート。
- りんごやぶどうの従来品種の栽培面積は横ばい傾向。

### (良食味米、業務用米等の栽培面積)

- 栽培面積全体は527haと基準値に比べ微減。
- 良食味米(427ha、基準年比△30ha)は作柄不良で品質が低下し、基準を満たす米が減少。
- 業務用米(27ha、同+22ha)は外食産業からのニーズが高く、JAも取組を強化しているため増加。
- 酒米(73ha、同±0)は酒蔵との契約栽培で需要が安定。新品種が増加傾向。

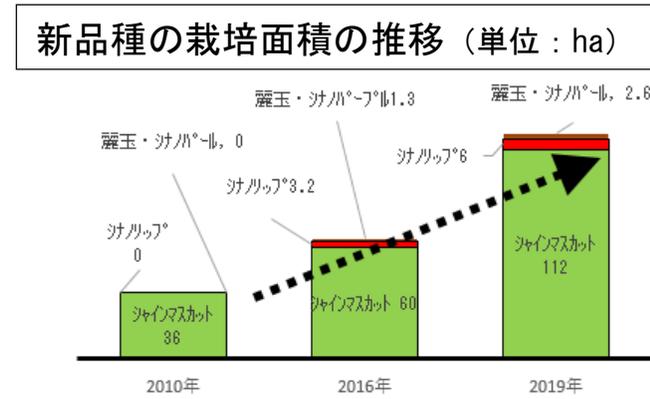
### 【重点政策の評価】

- 果樹戦略品種等の拡大は、栽培管理技術の研鑽、長期出荷体制づくり、新品種の早期産地化等の取組により成果が表れている。
- 良食味米・業務用米等の拡大は、基本的栽培技術の徹底や栽培講習会の開催、実証ほ場の設置等の取組を行っているが、天候不順により成果が十分に表れなかった。

### 【今後の取組の方向性】

- 新品種の導入推進等によりバラエティに富んだ品種構成と市場評価の高い果樹産地づくり。
- 良食味米、業務用米、酒米それぞれの新型コロナ影響下での需要に応じた品質向上と産地育成。
- 繁忙期の労働力確保による安定生産。IT・IoTを活用した栽培管理技術の普及による省力化と品質向上。

果樹戦略品種等(北信地域)	
新品種 【増加】	ぶどう：シャインマスカット りんご：シナノリップ すもも：麗玉・シナノパール
従来品種 【横ばい】	ぶどう：ナガノパープル りんご：シナノスイート、秋映、シナノゴールド、シナノドルチェ



米・食味分析鑑定コンクール  
入賞件数割合 (H27~R1合計)

